

令和元年度 飯田技術専門校運営協議会 主な意見

日 時:令和元年6月20日(木)

項目	学科・訓練科	構成員からの主な意見	校からの回答・校の考え方	
評価シートに関する事	応募・入校に関する事	自動車整備科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都会の専門学校間の競争も厳しく、定員充足率が40～50%の学校がたくさんあるので、飯田技術専門校の定員充足率は高いほうではないか。 ・ 自動車業界では整備士が不足しており、求人も多く、技術専門校からは是非自分の会社に来てほしいと言われている。地域密着の飯田技術専門校はとても必要。定員を増やしてもよいのではないか。 ・ 高校訪問で自動車整備士を勧めても、既に進路を決めている生徒が多いので、中学校を訪問する動きもある。 ・ 親の世代は、技術専門校に対するイメージが悪いので、イメージを変えるようなPRを行ったらよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員を増やす計画はない。まずは定員を満たしたい。 ・ 本校も、自動車整備士確保に向けた動きについて情報共有させていただき、効果的な取組を展開したい。 ・ 授業料が安い、地元就職に強い、地域の企業との繋がりがあ、少人数で訓練をする体制ができているといったところを、もう少しスマートにPRできればと思う。
		木造建築科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化の中、定員を見直す時期なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員20名を受け入れる体制・設備がある。若年技能者について、不足感を抱く企業が多い。今後も20名でやっていきたい。
	訓練に関する事	自動車整備科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材車に、電気自動車・ハイブリッド車はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブリッド車はある。電気自動車はないが、講習は実施している。
		木造建築科		
	就職に関する事	自動車整備科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の自動車業界からすると、地域密着型の技術専門校は欠かせない存在だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の期待に応えられる技術専門校を目指したい。
		木造建築科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築大工を志す人が減っている理由として、給料が安いなどの社会構造、産業構造としての問題もある。 ・ 増えている空き家に対するプロジェクト(NPO)や、若手建築士の「気候・風土に合った住宅作り」研究グループによるビジネスの創生といった動きがある。地域の中でビジネスを起こして、大工もそこに参加していけるよう行政も支援していけたらよいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯下建設産業労働組合連合会の調査によると、組合員の半数が60代以上の建築大工で高齢化が進んでおり、今後、技能の継承者がいなくなってしまう心配がある。飯田技専では、建築大工の養成をこれからも積極的に推進していきたいと思っているが、それには入校生を少しでも多く確保していくことが大きな課題であり、関係機関、団体とも連携し、建築大工の現状や可能性を考え行動していきたい。
	参考指標に関する事	自動車整備科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の統計では若者の離職率は3割といわれるが、飯田技術専門校では就職した者の3年後の離職率が53%となっており、定着していないといえるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術専門校修了時に就職した企業を離れても整備士は続けており、自動車関連への就職率は93%となっている。また、正規雇用率も93%である。
		木造建築科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設業全体でみても求人はあるが、建設業に就きたいという人が少ない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価シートで3年後の就職状況を見ると、関連就職率100%・正規雇用率100%となっている。非正規雇用が問題となっている中、建築大工の技能を身につければ、やりがいを感じる事ができ、安定的な職業生活に就けるということPRしていかなければと思っている。
	その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校名が今の時代に合っていない古いイメージがある。そういったところからイメージを変えていくと、入校生の増加に結びついていくのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年、技術専門校機能強化検討会の中でも、イメージアップ戦略に取り組んでいくという方向性が示されている。校名変更については、飯田技術専門校一校の問題ではないので、人材育成課と相談していきたい。
	学びの場としての校のあり方に関する事		<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術専門校、高等職業訓練校という技能労働者のための訓練機関があるということをもっと広く地域の皆さんに知っていただかないといけない。イメージアップを図りながら、魅力的な、地域にとって有意性の高い学校を、地域と一緒にやっていくことが望まれるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術専門校の必要性や魅力を、これからさらに関係機関と連携し、より地域の人に届くようにアピールしていきたい。
その他運営に関する事		<ul style="list-style-type: none"> ・ リニアが開通すれば、南信州は東京・名古屋両方に近い日本で初めての地域となり、新しいビジネス・働き方が生まれてくるのではないかとわれている。木造建築科は在来工法に特化しているということだが、在来工法を用いたリフォームとか工芸品とか新しい働き方をここで学ぶことができるようになれば、自然豊かな南信州で働きたい、学びたいという人が都会から来るかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニアが開通すれば、長野県の南の玄関口になる。これからのポテンシャルのある大変面白い地域であると思う。これまでの訓練を活かしつつも、新しい展開といったことも考えていければよいと思う。 	